

当社開発の『MEDICAL MOVER』を使った移動式遠隔医療の実証実験を実施

トヨタ車体株式会社（以下、「トヨタ車体」）は、当社が開発した医療 MaaS 車両「MEDICAL MOVER」^{*1}に P H C 株式会社メディコム事業部^{*2}（以下、「P H C」）の遠隔医療システム「Teladoc HEALTH」^{*3}を搭載し、移動式の遠隔医療の実証実験を行いました。これは、2022年8月から9月にかけての5日間、山口県山間部における地域の巡回診療および訪問看護のシーンを想定し、実施されたものです。

本実証は、巡回診療車の導入を検討されていた「とくち診療所」からの相談を受けスタートしました。車両は、トヨタ・ノアの車イス仕様車をベースに、2列目シートを取り外し、3列目には必要な機器が収納できるキャビネットを取り付け、PHC 遠隔医療システム「Teladoc HEALTH」を搭載した仕様としました。

トヨタ車体が遠隔医療の実証実験を企画提案し、運用体制や診療に必要な設備・機器を検証することで実運用に必要な「MEDICAL MOVER」の仕様確認と本診療モデルの患者さんおよび医療従事者にとっての有用性の確認を目的として実施しました。

本実証で明らかになった技術面・運用面における課題をさらに整理し、へき地における医療課題を抱える自治体・医療機関に対し提案していきます

実証を行った山口県徳地地域は、高齢化率が53.7%^{*4}であることや公共交通機関での移動が限られているため、医療機関へのタイムリーな受診が困難な環境です。今回の実証実験では、患者さんと医師の移動負担の軽減など、双方のニーズに適したオンライン診療の提供を目指しました。

本実証にて遠隔診療を担当した中嶋裕先生（とくち診療所長、および山口県立総合医療センターへき地医療支援部部長）コメント

「医療資源が限られた地域での医療提供体制を強化し、予防・啓発、救急対応、在宅医療、医療介護分野の連携の取り組みを推進するために、実証実験を行いました。医療 MaaS 車両や遠隔医療システムなどの技術を活用することは、地域で暮らす方々をさらにサポートできると期待しています。」

- * 1 : さまざまな理由で診察や健康診断に行けない方々の健康維持・増進などの課題をモビリティで解決することをめざしたトヨタ車体の「医療 M a a S 車両」
- * 2 : 1969年に設立した PHC 株式会社は、グローバルヘルスケア企業として事業を展開する P H C ホールディングス株式会社の日本における事業子会社。ヘルスケアソリューションの事業領域においてヘルスケア I T 事業を行うメディコム事業部は、1972年に国内で初めて医事コンピューターを開発、発売。以来、事業ブランド「メディコム」を掲げ、電子カルテシステムをはじめとしたヘルスケア I T 製品・サービスの提供を通じて、患者さんへの医療サービス向上と医療従事者の業務効率改善に取り組んでいる。
www.phchd.com/jp/medicom/about
- * 3 : www.phchd.com/jp/bx/telehealth
- * 4 : 令和2年度国勢調査 : <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>

